

滝ノ城跡(所沢市)

築城年代:室町時代?、築城者:大石重定

正面の石柱の左手に「滝の城跡散策道」の看板が立っている/滝ノ城は別名本郷城とも呼ばれる



滝ノ城跡の縄張りの他に「7世紀頃の横穴墓群が発見されたところ」が記されている



上記の縄張り図は判り難いので城山神社社務所前(「現在地」と記されたところ)にある滝の城縄張り図を参考に調査を開始する



右端の二重赤丸のところが最初の「滝の城跡散策道」の看板が立っているところ/まず、二重赤丸の近くの土塁と堀跡を見ながら右手の道路を中堀と記されたところへと進み、更に内堀と記されたところの階段を登って本郭(現在城山神社)へと行ってみよう



石柱には城山神社とある



これは縄張り図で城域の西側を巡る土塁と外堀跡



左手を見るとその土塁がクランクして、城山神社へと道に沿って北東方向へ続いている/中央やや右手前に表示板が立っている



二重堀跡と記されている



本郭を囲む内堀跡の他に、この先に先程の外堀跡の内側を巡るもう一つの堀(中堀)が巡っているので二重堀跡と言われるようだ



正面の高台に見えるのは二の郭に建つ城山神社社務所/その手前に右手から左手にクランクして内堀が巡る



こんな具合/中堀跡と二の郭との高低差が見てとれる



右手を見たところ



左手を見たところ



左手の土塁上に登って見たところ



そこから右手の土塁と中堀跡を見たところ



右手の土塁上から外堀跡を見たところ/この外周の道路は外堀の一部であったようだ



その先を見ると表示板が立っている



「血の出る松跡」と記されている



道路側に下りてみる



こちらにも「血の出る松の跡」と記された石柱がある



道路を下って見たところ/左手の高まりが「血の出る松の跡」のところ/右手は土塁



次は中堀と記されたところから先程の土塁と中堀跡を見してみる



前方高台に見えるのは城山神社社務所で左手が先程来の土塁



左手の土塁を見上げるとさまざまな石造物がある





更にその上方にも石柱が見える



土塁の上にある「物見櫓之趾」と記された石柱



右手を見下ろすと土塁がクランクして斜め右方向へ続いており、右下には二重堀跡(中堀)が巡っているのがここからも見てとれる



さて、中堀と記されたところに戻って道路の先を見ると右手に神社の鳥居がある



「稲荷神社」と記された神額



更に道路を下って行くと左手にも鳥居が見えてくる



ここが城山神社の正面参道



更に道路を下ると「霧吹き井戸跡」と記された表示板が立っている





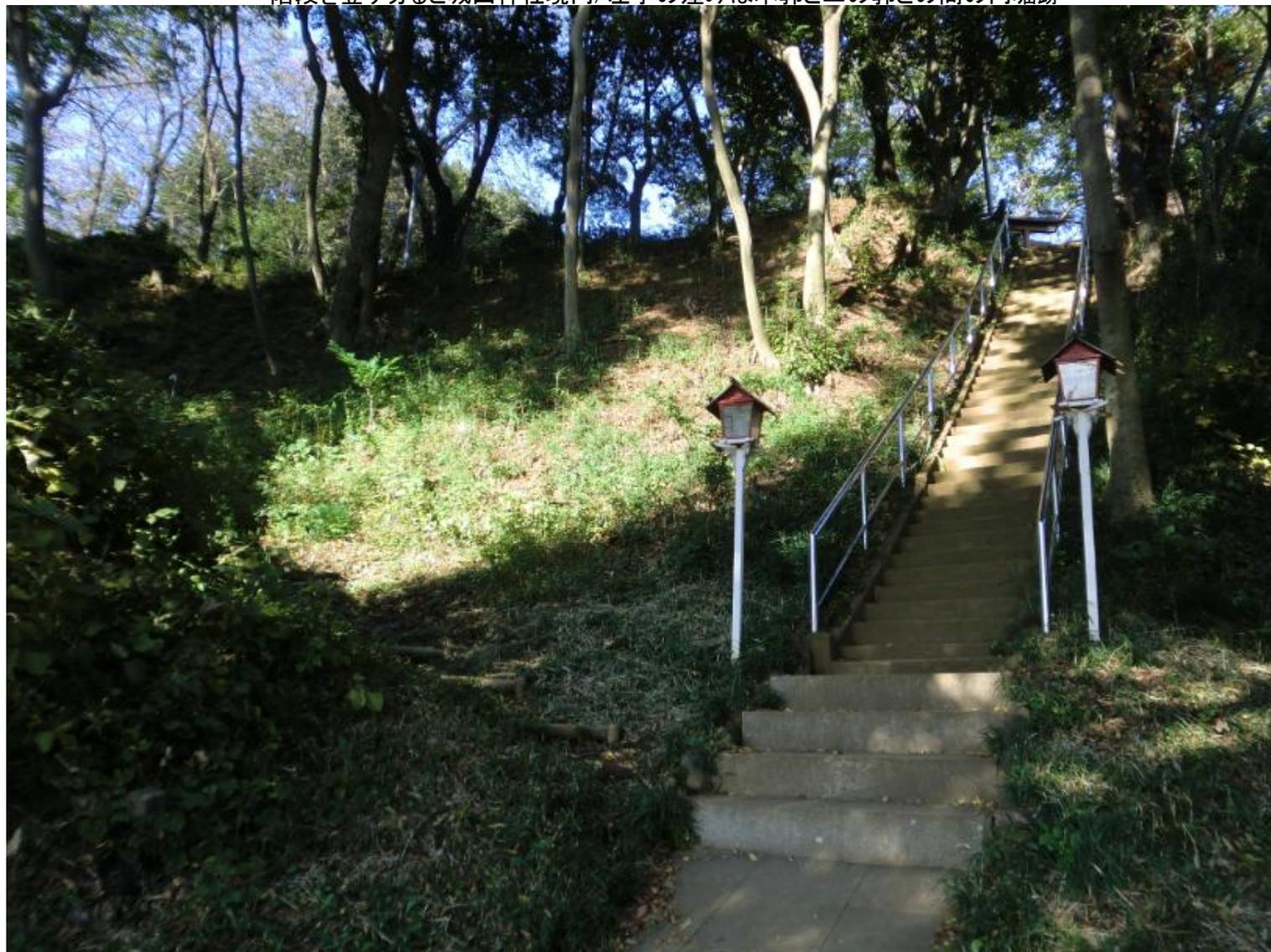
ここが井戸跡であろうか/石柱に「大峯大権現」と記されている



さて、内堀と記されたところの階段を登って本郭へ進もう



階段を登り切ると城山神社境内/左手の窪みは本郭と二の郭との間の内堀跡



ここが城山神社境内で滝ノ城の本郭跡



城山神社拝殿



右手の馬出し/表示板が立っている



さて、説明板だがこのエリアが三の郭



三の丸跡(三の郭)で別名、茶呑み郭とも云うらしい

三の丸跡 (別名) ちやのみくるわ 茶呑み郭

滝の城は大石氏により築城されましたが後に北条氏照(八王子城主)の持城となり永録～天正年間(1557年～1577年)野州(栃木県)方面出兵の折りには本城より出陣してます。

又、在城の時には三の丸において家臣と共に茶の湯を楽しんだとも言われています。

滝の城跡保存会

ここが三の郭



三の郭のエリアには大井戸跡の表示板が立っている



振り返って三の郭を見たところ



これは三の郭から北西方向を見たところで、三の郭を巡る中堀跡の向こうの土塁が見えるが、そこには物見櫓があったという



これは同じく北東方向を見たところ/遊歩道になっているが、ここが三の郭を巡る中堀跡でその右手は土塁



三の郭の説明板のところで二の郭方向を見たところ/右手は馬出し、左手が本丸虎口



そこから振り返って北方向を見ると左手に土塁が見え、ここが物見櫓があったところ



近づいて見る/右手に石柱が立っている



「物見櫓之趾」と記されている



その辺りから南方向に三の郭を見たところ



三の郭を巡る右手の中堀跡を見たところ/遊歩道を前方に進むと本郭跡(本丸跡)へと至る



同じく左手の中堀跡を見たところ/この遊歩道を下って行くと城山公園がある





ここが物見櫓跡



石柱が立っている



「物見櫓之趾」とある



これはこの物見櫓跡から三の郭を見たところ/手前が先程の遊歩道(中堀跡)で左手に下って行くと滝の城址公園がある



その滝の城址公園側を見たところ



さて、正面の高まりは末尾の縄張り図でいう推定大手口の近くにある物見櫓跡



頂部に小祠が建っており、手前には石柱が立っている



「物見櫓之趾」とある



これは推定大手口とされるところを北側から南方向に見たところ



これは末尾の縄張り図でいう外郭のエリアを北東側から南西方向に見たところ



同じく外郭のエリアを別の場所で北西側から南東方向に見たところ/正面中央の高い木の辺りにも物見櫓があったらしい



東側から近づいて見たところ/車の向こうに高まりが見てとれる(木が生い茂っている)



さて、これは出郭のある辺りを北西側から南東方向に見たところ



ここが出郭のエリアの中央付近か



平場となっており、遊歩道の休憩所が設けられている



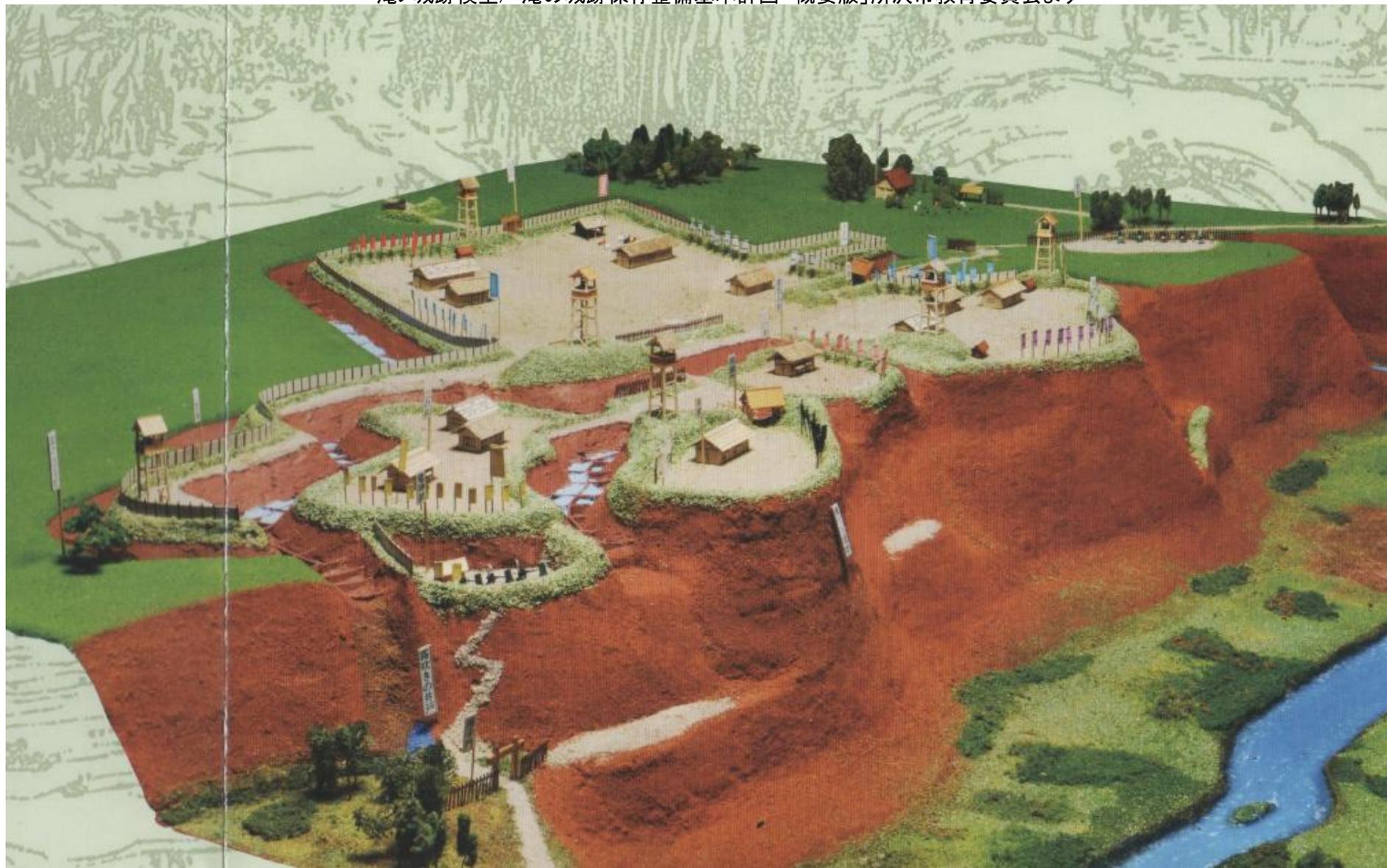
こんな具合



そこから南西方向に滝の城址公園へと下って行く遊歩道を見たところ



滝ノ城跡模型/「滝の城跡保存整備基本計画 概要版」所沢市教育委員会より



滝の城跡 縄張り図



埼玉県指定史跡
滝の城跡保存会



「滝の城跡」 縄張り図

埼玉県指定史跡「滝の城跡」

立地と歴史的背景

滝の城は東川と柳瀬川の合流点に築かれ、南側は高さ約25mの急崖、北側は三重の堀や土塁によって守られています。本郭・二の郭・三の郭の内郭とそれらを囲む外郭・出郭で構成される多郭式の平山城で、内郭は現在も遺構が良好に残されていることから、大正14年に埼玉県史跡として文化財指定されています。

滝の城は関東管領山内上杉氏の家臣で、当時武蔵国入間郡・多摩郡に領地を有していた大石氏が15世紀後半に築いたと言われています。大石氏は信濃国佐久郡大石郷（現長野県南佐久郡佐久穂町）の出身で、木曾義仲の末裔と言われています。代々山内上杉氏に仕え、武蔵守護代などを歴任しました。15世紀後半は大石氏の主家である山内上杉氏と太田氏の主家である扇谷上杉氏が互いに敵対関係にあったため、太田氏の江戸・岩付・川越の3城を警戒するために、大石氏によって滝の城は築城されたものと思われます。その期に乗じて武蔵国に進出してきたのが（小田原）北条氏でした。北条氏を危惧した山内・扇谷上杉氏は古河公方と共に北条氏に対抗しましたが、天文15年（1546）の河越夜戦で敗北し、扇谷上杉氏は滅亡、山内上杉氏は越後へと敗走しました。主家である山内上杉氏が破れたため、大石氏は北条氏に従属するところとなり、北条氏康の次男（氏照）を養子に迎え、滝の城は氏照に引き継がれました。その後、滝の城は「境目の城」として重要な役割を担い、柳瀬川を渡った対岸（現東京都清瀬市清戸下宿に推定）には番所が置かれ、三田氏に輪番で警固させていたことが、永禄7年（1564）5月に発給された「北条氏照印判状 清戸三番衆交代命令状」として残されています。

す。更に東へ北条氏の支配が進むと滝の城は河越城・岩付城・鉢形城への「つなぎの城」となり、永禄7年(1564)～天正5年(1577)にかけての下野方面への出兵の際には陣揃えの地になったと言われています。滝の城の外郭もこの時期に整備され、兵站基地として多くの兵が駐留できるようにしたものと思われます。しかし天正18年(1590)、滝の城は豊臣秀吉による小田原攻めの際、浅野長政勢の北方からの攻撃を受けて、一日で落城したと言われています。

これまでの発掘調査の成果

平成2年度に本郭の虎口から焼失した四脚門跡が検出され、内堀を跨いだ北側の「馬出し」に向かって木橋が掛けられていたと考えられています。平成24年度には二の郭から4本の柱穴を伴った方形の土坑が検出され、柱穴内からカワラケ、土坑の底面からは鋸が出土しました。この遺構は二の郭の造成前に掘り込まれ、遺物を埋納したのちすぐに埋め戻されていること、簡単な屋根が掛けられていた形跡があることから、築城に伴う地鎮的な儀礼跡と考えられています。また馬出しと三の郭の間からは1列の石敷と4本の柱穴が検出され、炭化材と焼土が出土しました。ここは馬出し虎口にあたり、炭化材は焼失した門の部材と思われます。さらに三の郭からは6段の階段を伴った径10mの井戸跡が検出されました。三の郭は標高が高く、水の出る深さまで掘るには相当深く掘らなければなりません。籠城戦に備え、敵の手に落ちない城の中心部に井戸が必要だったものと思われます。昭和61・平成元・11年度には外郭外堀で北条氏の城館で見られる「畝堀」が検出されており、外郭は北条氏が増築したものと思われます。また外郭の東側には「物見やぐら跡」の石碑が立つ土塁があり、ここは大手口と推定されています。城外に位置する出郭は小谷によって画されており、この谷には「滝の城」の名の由来となった滝がありました。

<http://www.water.sannet.ne.jp/u-takuo/takinozyou.htm>

<http://www.asahi-net.or.jp/~JU8T-HNM/Shiro/Kantou/Saitama/Takino/index.htm>

<http://members2.jcom.home.ne.jp/y-tadashi-jp/shiro/takinoiyoato/takinoiyou.htm>

<http://www.knet.ne.jp/~ats/t/hist/s2/taki.htm>

http://castle.slowstandard.com/08kanto/11saitama/post_1419.html

<http://blogs.yahoo.co.jp/s04hi992ma/17452300.html>

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/takinannpata.htm>

<http://ckk12850.exblog.jp/4928736/>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BB%9D%E3%81%AE%E5%9F%8E>

